

## 小島染織工業 <特集記事> 我が社の独自性を支える「経営の掛け算」 — 前編 —

### ◆特集記事の目的・狙いとは？

リタネッツ(組合員数1,914社:H29.9.30時点)は『利他の経営を行う「よい会社」のネットワークづくり』を目的に異業種の組合である特長を活かし、各々の組合員が持つ経営体験を組合員間で広く共有することで経営のお役に立てて頂くことを目指しています。

ある企業が直面した壁とその克服のプロセスを共有することで、別の企業が同じ試行錯誤を回避し、発展的な事業活動を行うことが狙いです。

時代のニーズが大きく変化して行く中、自社の独自性・差別化ポイントを見出すヒントになればと思い、特集記事(テーマ【我が社の独自性を支える「経営の掛け算」】)を企画しました。今号と次号では、伝統工芸である藍染織物を製造する100年企業、小島染織工業(株)(羽生市)の特集記事をお届け致します。

### ◆小島染織工業とはどんな会社？

小島染織工業は明治5年(1872年)、江戸時代中期から農家の副業として藍染織物を製造していたものを企業化し創業しました。当時は農作業用の股引き(=もみき)の生地製造が中心でその後、明治期に入り、(埼玉県)行田足袋産地向けの織物製造を開始します。

昭和期に入ると機械設備を導入し、藍染の需要増に対応するとともに染める布の広範化が可能になり、藍染織物の製品バリエーションも拡大して行きます。

さて、行田足袋と言えば、日曜劇場「陸王」(TBS・2017年10月～)で主役の役所広司さんが着用していた半纏を製造していたのが小島染織工業です。同社工場内には藍染織物ショップ「小島屋」があり創業146年の伝統(武州正藍染)を体感することができます。



半纏を持つ小島社長(左)と埼玉県上田知事(右)

さて、藍染のプロセスをご存知でしょうか？藍染の染料は、タデ藍等から作ります。文字通り、藍色の染色をすることができ、色が褪せにくいという特長があります。日本では江戸時代に盛んになった技法で、藍染された布はその風合いだけでなく、「消臭効果」「細菌増殖の抑制効果」「虫よけ効果」が付与されます。

藍染の工程は我々が思っている以上にハードで、夏場には40度を超える環境の中、また冬場でも手作業で行います。糸を染料に漬けては搾り、漬けては搾りを何度も繰り返していきます。染め上がりの状態は職人達による厳しい眼で確認・管理しています。



手作業によるこだわりが独特の風合いを出します。

### ◆小島染織工業が大切にしている経営の「基本的な考え方」

2003年4月、小島秀之社長が32歳の時に伝統工芸を営む100年企業の2代目として社長に就任します。ただ、それは御尊父の急逝に伴い、急遽訪れることとなりました。当時のことを小島社長は『とにかく会社を残さねばと無我夢中の日々でした。』と振り返ります。

その後、小島社長が取引先社長に掛けられた“あるコトバ”に救われながら覚悟を持って経営のかじ取りを進めていくこととなります。これから従業員と伝統を守り、企業を存続させていくためにブレない経営の「基本的な考え方」を定めることを決意します。

それは、同社が他社に負けない「伝統」と長年受け継がれてきた「技術」を持つこと、また藍染がAIZOMEとして海外からも注目されていることを踏まえ、「全従業員の物心両面の幸福を追求し、お客様を感動させる価値の提供を通じて、未来に向かって豊かな社会づくりに貢献します。」を経営理念(経営の「基本的な考え方」)とし、同社が存在する意義と事業の目的を明確に示して行きました。 ➡ 次頁に続きます ➡

以後、小島社長は経営の基本的な考え方（経営理念）を基軸に『藍染こそ人生！』と力強く発信し、『世界を愛で染め上げ、夢と感動を織り上げる』ために経営活動を行っています。

## ◆小島染織工業の独自性を支える「経営の掛け算」とは？

＜掛け算①＞ 突然の社長就任に対峙する勇気をくれた“取引先社長の一言”

☞先代から社長業の教育を受ける間もなく先代が急逝。突然の社長就任に戸惑う中、取引先社長の一言で先代の遺してくれた繋がりに気付く。

＜掛け算②＞ 藍染の独特な風合いを出す自動織機とメンテナンス人材と技術

☞武州正藍染の譲れないこだわりを表現するには既に生産中止となった自動織機が必要。若手人材がメンテナンスを担い、伝統を守り続ける。

＜掛け算③＞ 化学染料の多彩なバリエーションを支える“色の魔術師”

☞何千、何万色のバリエーションを表現し、経年変化する色合いも絶妙なコミュニケーションでカバーする化学染料の調合ノウハウの蓄積。



＜掛け算②＞ 独特の風合いを出す自動織機

＜掛け算③＞ 多彩な化学染料を担う染色機

次号 WAVE(第214号)では、これら3つの「経営の掛け算」を具体的に解説いたします。なお、掲載情報については各社HPを参照下さい。

■小島染織工業株式会社 HP: <http://www.kojimasenshoku.com/>

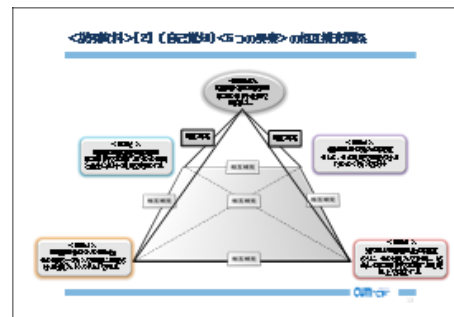
■リタネッツ事業協同組合 HP: <http://www.ritanets.com/>

## ◆組合内経営大学(リタネッツ・ユニバーシティ)第3期 経営者課程を開催しました！

リタネッツでは社長とNo.2を対象としたリタネッツ・ユニバーシティ(経営者課程:〔自己覚知〕経営)を開催しました。本講座では異業種の経営者・後継者が集い、自社の経営を振り返る時間として、そして、社外取締役として今までにない発想で意見交換を行う「場」となりました。

特集記事「我が社の独自性を支える経営の掛け算」で掲載した小島染織工業(株)も本講座の受講生です。

〔自己覚知〕経営は自社の経営を5つの要素に分解し、経営理念を基軸に5つの要素の相互補完を重視した経営手法です。「経営理念」と共にどの会社でも実施している「チーム・部門の編成」「各種会議・ミーティング」「人事評価制度」などを5つの要素に位置づけ、それらを実施する目的(→「なぜ、それが必要なのか?」)を粘り強く考え尽くし、ブレない考え方をベースに経営活動を行っていくものです。



(右)RU-経営者課程 修了証書授与式の様子  
(左)〔自己覚知〕経営の5つの要素の相互補完関係

講座では独自に作成した演習Sheetの活用を通じて、参加者自身が社長の役割、No.2の役割、管理職の役割を再認識(気付き)されていました。この気付きが自社に帰った後、同じ取り組みであっても、いままでとは違う成果を生む、ベースとなります。本講座の修了証書授与式では自身の学びについて、決意表明がありました。(リタネッツ・ユニバーシティは組合HPでもご確認頂けます)